

2004/12

ミニ大通
だより

第一編

洗い終わって団子状になっているセーターとブラウス。しゆるしゆるつと引っ張り下ろしてもうう時のたまらない気持ちよさ！快感の記憶は、夏、背中に入れられたタオルへ続きます。走り回って汗をかき、シコツと抜き取つてもりつ、あの瞬間！こういうと、札幌では冬にタオルを入れるんだと友達が教えてくれました。汗は雪でかくもの、かなるほど。

いま、三二一通を走る子どもたち。背中にタオルは入っているの？



でもしたじ 日々に追われ、仕切り線はこすれ、やがて消えかかるのでしょうか。頼りない自分も登場するでしょう。そんな時には何かに助けてもらわなくちゃ。信頼できる人、可愛がっている人のこと。三一大通の小さな自然、行き交う人や犬の光景。音楽、偶然の幸運…。そうそう、新年を祝う鯛の中にもう一匹の鯛を見つけました。「鯛の鯛」。私の中の私? 情けない姿も、ハツラツとしている姿も、どちらも私。丸抱えて、今年もぽちぽち行きましょ。



湯の中でジーンとしびれて、いつせいに開く毛穴。わけのない心細さに襲われて、静かな浴室で思わずブルブル。やがて体が温まり、ほぐれて安心すると、ほんやり浮かぶは今日の出来事。そして昨日や遠い昔。

今朝、シャツにセーターを重ね着て、長い袖を少し折り返しました：ああそう言えば、あれもいつかの冬の朝。顔を洗う前には、母がセーターの袖口を二の腕までたくしあげてくれるのです。

2005/01

新編
卷之三

ミニ大通
だより

やがて人波途絶える夜の町。黒く、細長いシルエットで立ちつくすボブ。いちばん背の高い木の先っぽに、引っかかるように出ているのは冬の月。晴れた夜もいいけれど、雪の夜、ことに吹雪っている夜の満月、一度みてください。白い、もこのいのマリモが夜空に迷い出て、困っているようですから。

誰かの帰りを待つオーレンジの街灯り。そして雪の夜の白いマリモ。私の好きな札幌冬景色です。



新しい年が日本にきた。た。流れる時間にかわりはありませんが、心の中に仕切り直しの線を引いてみます。優柔不斷だつたこと、ルースになつていたこと、何かのせいにしていたこと。ふりかえれば、やや情けない去年でした。

引いた線の先は都合よく真っ白な世界。判断力に満ち、ハツラツとした自分に変身できました。

冬のまんなか。雪が降つては積もり、踏み固められてまた降つて、白い世界が広がっています。ミーティングも小型天一四分ぐらひ、いつもの地面より空に近づいています。道行く人の影さえ白い、そんなモノクロの街に、温もりがもどる時間——それは、街灯点てる夕暮れ時。ほつほつとオレンジの光が重なり合い、ほんわりとした空氣がありを包みます。人々のコートや帽子に色がつき、家路を急ぐ姿は体温をどうもどしました。

2005/02

外の世界。

ミニ大通
だより

ても。このお鍋の飯にも欠点が一つ。一つは異常なほどに重たい人々。二キロもあります。このおかげで蒸気があつまく回るのでしようけれど、これじゃまるでタンベル。そして、もう一つは過食。ご飯にゆかりをかけただけで、それは美味しい一食に。ついお箸が進みます。ですから、もう一念発起して、三一大通を毎日ウォーキングした方がええかしら、と思案中。小さいおにぎりを片手にね。



今年から一念発起して、お鍋でご飯を炊いています。芯ができるかも。生煮えになるかも。そんな失敗の予感が炊飯器からの独立を躊躇させてきました。

ところが意外。そのフランプ製のホーロー鍋は、毎日機嫌よく、おいしくご飯を炊き続けています。玄米一、白米二の割合が今のお気に入り。料理本のレシピどおり、沸騰して強火のまま一分、弱火にして一二分、蒸らしに一五分。たつたこれだけの時間で、芳ばしく

2005/03

卷之二

ミニ大通

な都会のオアシスです。ここに古い枝垂れ桜が一本。ぐるぐる、妖艶な姿をういてに浮かび上がらせ、足元では酔客が笑い声を響かせ合っているでしょう。かつては私もお世話をになりました。

札幌の桜はまだ少し先。三一(大通)三三(三二)桜並木もまだ蕾堅し。こちらの桜には宴会よりも一人宴が似合いそう。通りすがりに静かに愛でて、昔見た桜のことなど思い出しつつ…臘月など出てくれたら、言うことなし。おとのなの、春の、宴。



年度はじめの四月は、やたら宴席の多い月です。学生時代のゼミコン。勤め人時代の歓送迎会。どれも、徳利をもつてウロウロする人が出没、その間をぬつてトイレに行き、帰りに捕まつて違うテーブルで飲み始める、この入り乱れ状態が最高潮になつたらお開きです。しかし、毎回、こんな不健康な宴会をしていたわけではありません。京都の八坂神社境内にある円山公園は祇園の賑わいの目と鼻の先。ほんまり

2005/04

三

ミニ大通
だより

る都会のオアシスです。ここに古式枝垂れ桜が一本。アーチ型の透かび上がらせ、元では醉客が笑い声を響かせ合っているでしょ。かつては私もお世話をになりました。

札幌の桜はまだ少し先。三一大通の三三三一桜並木もまだ蕾堅し。こちらの桜には宴会よりも一人宴が似合しそう。通りすがりに静かに愛でて、昔見た桜のことなど思い出しつつ…臘月など出てくれたら、語うことなし。おとなの、春の、宴。



年度はじめの四月は、
たら宴席の多い月で
す。学生時代のゼミン。
勤め人時代の歓送迎会。
これも、徳利をもつてウ
ロウロする人が出没、そ
の間をぬつてトイレに行
き、帰りに捕まつて違う
ノーブルで飲み始める、
この入り乱れ状態が最高
潮になつたらあ開けです。
しかし、毎回、こんな
不健康な宴会をしていた
わけではありません。京
都の八坂神社境内にある
円山公園は祇園の賑わい
の目と鼻の先。ほんぼり